

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 マルコ 柴本 孝夫

261号

2022.12.25 発行

YASURAGI



「み言葉をそのまま体現する者に」

司祭 マルコ 柴本 孝夫

クリスマスおめでとうございます！

ご一緒に救い主なるイエス・キリストの御降誕を心からお祝いし、苦しみ悲しみが渦巻くこの世界に、まことの希望が示されますようにと祈ります。

毎年クリスマス礼拝、ことに12月24日のイヴ礼拝では、このクリスマスの出来事を伝える聖書の箇所がいくつも朗読されます。とくに注目したいのは、独特な表現をしているヨハネ福音書の言葉です。

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。…

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

言(ことば)が肉となった。それまで語り伝えられていた言葉が、今現実に見えるものとなった、ということでしょう。それがまさに幼子イエスさまの誕生でした。

先日、大阪教区の聖公会生野センターの30周年記念感謝礼拝に出かけてきました。生野センターは多くの韓国人が暮らす大阪・生野区にあって、韓国人と日本人が共

に地域の人々に関わりながら宣教活動を行う拠点として設立されました。

礼拝後は、これまで深い関わりがあった人たちによるパネルディスカッションも行われました。

心動かされたのは、施設の母体、聖ガブリエル教会の礎となった張(チャン)牧師のことでした。私の理解は不十分ですが、張牧師はこの日本社会にあって韓国朝鮮人に対する差別と偏見にさらされながらも、主の教えを説きつつ必死に働かれたのだと思います。そして彼の生きざまをよく表す聖句としてヘブライ人への手紙13章3節の言葉が紹介されました。

自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。

私たちがたとえ逆境の中に置かれようとも、自分の考えや思いばかりに頼って生きようとするのではなく、心に響いてくる神さまの言葉に聞き、そこに示される生き方をこそ実践する。み言葉をそのまま体現する者になっていきたいと思います。